

平成28年度 校区外部評価

学校評価表（最終まとめ）

学校名 城南第二小学校

【学校評価表の作成および評価に当たっての留意事項】

○各学校では、それぞれの項目ごとに「本校の基本的な考え方」を記入してください。
各学校で評価指標を設定してください。その際は、各学校の重点的な取組と関連させて評価指標を設定をしてください。なお、必要に応じて行を増やしていただいてもかまいません。

○校区外部評価委員による外部評価委員会が開催される前に、学校は、自己評価結果（取り組みの状況や変化等）について、必ず説明をしてください。（校区外部評価委員は、その説明と実際に自分が見た学校の状況等により、評価します。）

【校区外部評価委員の皆様へ】

☆評価をする際には、実際に授業等を見た内容だけでなく、学校が説明した内容、聞き取った内容も十分に参考にしてください。従いまして、評価のために必要と思われる情報や資料につきましては、遠慮なく学校に御請求くださいますようお願いいたします。

評価項目1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方		★自分から学ぶ姿勢を学問の基本とすること。 ◎学習意欲を喚起させる。※知的好奇心・興味関心 指導の工夫、教材教具の開発、達成感 ◎教科書の基礎的・基本的な内容は確実に定着させる。 到達目標 国語・算数・社会・理科の単元テスト80点 ◎教師の授業力の向上 校内研究、伝達講習の充実			
評価指標	上段: 取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	児童・生徒は、学習の構えができています。	B	<ul style="list-style-type: none"> 不必要な離席もせず、忘れ物もほとんどないので概ねできていると思われる。 チャイム着席、学習準備ができています。 学年、学級によって差がある。 基本的な学習の姿勢(目を見て話を聞く、発言するときは立って返事をしてから話し始める)はほとんどの児童が身につけ、意欲的に学習活動にのぞんでいるため。 学校全体としては、概ねできているように思う。 学習中の取り組み方がとても良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで90%は立派。評価は全体的によくできているのに、先生方の評価規準の意識が高いのではないか。 学年、担任の先生のご指導が良くされていると思う。前の夜に明日の教科書等の準備させる習慣を付ける様に指導されることも必要かと思う。 学校全体としては基本的な学習態度が概ね身につけていると思う。 	すでに学校全体でスタンダードとなっている時計を見ての入室、チャイム着席を今後も継続させていく。また、授業の開始終了をチャイムとともに行うことを、若手教員も実践し、学習の構えとして城南第二小としてのあるべき姿を共通認識、共通指導を進めていく。
	児童アンケート1-②:80%以上 1学期 92.5% 2学期 90.9%				
②	児童・生徒は、授業中、教員や友達ときちんとした言葉でやり取りをしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 公の言葉を使うことができている。 丁寧な言葉で話すことができるようになった。 授業中での発言の仕方、言葉遣いをその都度声かけし、指導を繰り返している。 学校全体としては、概ねできているように思うが、学年差・学級差があることは否めない。 教員に対して反抗的な口調で話す児童も見られる。 授業中の発言では、話し言葉になったり、単語になったりする児童が見られる。公の場であることを意識させ、丁寧な言葉で、最後まで話すことができるように指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートでも向上していることが伺える。教員に対して反抗的になったり乱暴な口調にならないようにするためには一人一人の生活指導、学習指導の力を向上させることが大切。OJTはもとより校内研修の充実により教員の一人一人の指導力を向上していく。 言葉使いの難しさは普段から注意しなければいけないと思う。目上の人への言葉使いの区別は難しいのか。 良くなっているが、今後も、場に応じた話し方を学校と家庭でしっかり指導してほしい。 	低学年でも授業中に「公」の言葉使いをしようという姿が増えている。この状況を粘り強く続けていく。また、時や場、相手に応じた言葉使いは、発達段階に応じた形での指導を続ける。さらに、休み時間という心休める時間帯でも、礼儀を欠くことのないような言葉使いを指導していく。
	児童アンケート1-③および保護者アンケート2-(3):80%以上 児童 1学期 86.4% 2学期 88.8% 1学期 保護者 84%				
③	教師の指導に、メリハリをつけている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 縦の関係と横の関係が成り立っている。 授業のめあてを明確にして、それに向かって力を付けられるよう授業計画を立てている。 授業の核としてめあてを明確にもち、それに向かって力を付けられるよう授業計画を立てている。 毎日継続して行う活動、新しい活動などを一日の中にバランス良く組み込むように学習過程を考えている。 発問の明確化、工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> よく努力しているように感じる。引き続き努力を望む。 授業参観などにより、授業のうまい先生のノウハウを共有できると良い。 	教員間に互いの授業力を高めるために、授業を見あおうという雰囲気が出てきた。若手教員に授業を見せることで、中堅教員の授業にも、変化見られている。今後は、授業を見る際のポイントをはっきりさせ、若手教員の課題の克服に直接つながるようなOJTを行い、よりわかる授業展開を進めていく。
	保護者アンケート2-(4):80%以上 1学期 保護者 88%				
④	授業規律が守られ、教師は必要に応じた個別対応をしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業外での補習時間の確保が不足している。 教師の指導力や経験の差が大きい。OJTなどを活用して若手が学ぶ場が増えるとよい。 一部に授業に集中できない児童もいるが、概ねできている。 学校全体としては、概ねできているように思うが、学年差・学級差があることは否めない。 高学年になるにつれ、授業規律が乱れている場面が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> どうすれば教員の指導力を向上できるのか。教員一人一人の意識の問題が大きい。 補習時間の確保について検討すべきで補習時間を有効に使うことはできないのでしょうか。 規律順守に関しては、教師の指導力の差が現れると思うが、指導方法のノウハウを共有できると良い。 	守るべき授業規律の内容を、暗黙知で終わらず、明文化し、若手中堅も共通した授業を進めていく。補習についてはコミュニティースクールの中の取り組みとも連携し、より良い形を創造していく。
	保護者アンケート2-(5):80%以上 1学期 保護者 87%				

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目2 社会性・人間性の育成

本校の基本的な考え方		★6年間で、自主・自立できるようにすること。 ～正しい判断と行動・思いやり・地域の人々とのかかわり～ 生活指導の重点 ○あいさつ・会釈の徹底 ○チャイム着席 ○時・場・相手に応じた正しい言葉遣い			
評価指標	上段: 取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	学校は、市民科の授業を年間を通して計画的に実施している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画をもとに週案を活用して計画的に実施できている。 学年主任主導のもと、適切に行われている。 セカンドステップの授業のための研修を夏に受講し、10時間の学習活動を終えることができた。 ゲストティーチャーの授業など協力があって計画的に行われている。 学年で話し合いながら計画的に実施することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> AB合わせて95%は努力が見られ良い。さらに内容を学年で話し合って効果的な学習になることを望む。 市民科の授業については計画的に行われているように見受けられる。 年度指導計画に従い、各学年で計画的に実施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な市民科の指導を今後も続けていく。また、東海グループの中でも、市民科の指導内容の連続性を確認し、9年間を見通した連携をより密にしたい。
	年間指導計画をもとにして、各学年の指導内容及び指導時数をクリアする。				
②	教師は、毎月あいさつや礼儀、場に応じた行動など、しつづけるべきことをしっかりと指導している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 礼節を重んじる指導を重点的に行っている。 定期的に週目標として挨拶強化に取り組んだり、全教員が児童から挨拶をするようこまめに声かけをしている。 朝、正門で挨拶することはできるが、校内で会ったときに挨拶できる児童が減った。 市民科を通して指導している。 週ごとに生活目標を設定し、それを達成できるように学校全体で努力している。 	<ul style="list-style-type: none"> 廊下での会釈は目上の人に対して敬う気持ちが少なく難しい。学校全体の計画的な取り組みと目上の人に対する敬う気持ちの学習を取り入れていく。町中でも目上の知り合いにも挨拶ができるように指導していくとよい。 目上、目下の意識が薄れ、挨拶は家庭においても自然に言葉が出なければおかしいと思う。 学校ではしっかり指導されているようだが、家庭でのしつづけも重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 廊下での会釈が見についている児童とそうでない児童に分かれている。 各担任が挨拶についてどのような指導を行い効果があるかを、情報交換し検証し、より良い指導の形を作っていく。
	保護者アンケート1-(5)、3-(1)(3):80%以上 児童アンケート1-①③⑤:80%以上 1学期 保護者1-(5)84% 3-(1)76% 3-(3)75% 児童 1学期 ①95.5% ③86.4% ⑤81.7% 2学期 ①93.3% ③88.8% ⑤79.1%				
③	児童は、公共の場で適切な行動がとれる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 場や人に応じた挨拶ができないことがある。 多くの児童は左記のことを意識していると感じるが、「生活の中での定着」となると、まだまだ厳しいと思う。 すべての児童とは言いがたい。 校外学習の電車のマナーはよい方だと思う。 遠足では、電車の中でマナーを守って乗車するよう事前指導を行った。1年生の児童は、どの子も電車の中でしゃべらない、座らない、リュックを前にするなどの決まりをきちんと守って行動することができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年は言われたことを守りやすいが、高学年になるにつれ知識や意識を育てていかないと難しくなる。教室でのマナーや学年全体のマナーの徹底を図る方法を探る。 子供の成長につれ、恥ずかしい気持ちが芽生える時期がある。個人差はあると思うし、サラリーマンの家庭、自営業の家庭と環境によってできない子供もいると思う。 校外活動の際のマナーは守られていると感じるが、教師のいない状況での行動の把握は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 遠足等で移動する際に、周りに配慮する、席を譲る、荷物の持ち方を工夫するなど市民科の学習と連動し実践を進め、定着している。この点は、継続して指導していく。場に応じた言葉使いや態度は、保護者とも認識を共通させ、実践的な指導を進める。
	児童は、校外活動の際、市民科で学んだことをもとに適切な行動をとろうとしている。				
④	教師が毎日、範を示している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 約束を守る、時間を守る手本を示している。 生活指導夕会では、事故の報告はあるが、児童の普段の状況で共有しておいたほうがよい情報が十分に発信されていないことがあった。 夕会や職員室内で各学級の様子を話す機会が多くある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が毎日率先して範を示しているのはとても良い。子どもの話題を取り上げて課題解決の方策を話し合う機会を増やす。 学校、父兄地域での情報交換は大切と思う。 特定の学年が落ち着きがないという意見もあるが学校側の対応がきちんとなされているので今後の動向を見守りたい。 情報の共有は大事なので、今後も生活指導夕会等を利用して、こまめに報告連絡を行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級で廊下を移動している時に、来校者に対しての挨拶の範を示している教員が多い。このような取り組みをこつこつと続けていく。 生活指導面での情報共有は、共有にとどまらず、指導の共有にもつなげていく。
	生活指導夕会等で職員同士が情報交換をし、指導の統一化を図っている。				
⑤	児童は礼儀正しい態度である。	B	<ul style="list-style-type: none"> 場や人に応じた挨拶ができない。 教師や大人に対して礼儀正しい態度ができない児童が数名いる。 朝の挨拶、廊下ですれ違った時の会釈などが不足していると感じるので、学校全体として指導していきたい。 学校の職員にも、来校者にも自分達から挨拶ができるようになってきた。 今年度は、学年によって「差」がある。「C」を付けるまでではないと思うが、「礼儀正しい」とは言い切れない。 情報の共有化ができていない。 時や場によって、態度を変える児童が多い。市民科などを通して、いつでもどこでも目上の人を敬う態度を育てていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 2と同様、目上の人に対する敬う気持ちや礼儀の大切さを学習を通して学んでいく。 人に頭を下げることでできない大人も多い世の中ですが、小さい時からの躾が大切。 展覧会で作品を作ったという児童に「よくできているネ。」と声をかけると「ありがとうございます。」との返事があった。良い学校になってきていることを実感しました。 礼儀正しい態度が取れない児童は少数だと思うが、学校の指導と合わせて、家庭でのしつづけも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「時と場、相手に応じた挨拶礼儀言葉使い」を身に付けさせるために、これまで以上に家庭との連携を深めていきたい。
	保護者アンケート2-(1)(3)3-(1)(3):80%以上 児童アンケート1-①③⑤:80%以上 1学期 保護者2-(1)79% 3-(1)76% 3-(3)75% 児童 1学期 ①95.5% ③86.4% 2学期 ①93.3% ③88.8%				

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目3 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方		★学校は地域社会の拠点であり、地域づくりの中心であること。			
		○学校だよりやホームページによる情報発信 ○学校公開による教育活動の理解 ○3町会、PTA、父親の会、地域センターとの情報交換と協力体制			
評価指標	上段: 取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	学校は、保護者・地域に対して日頃から積極的に関わったり情報発信したりしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校のホームページで日々情報を発信している(他10名)。個々のクラスについては、学級だより(他1名)などを活用したり、必要な場合は電話や連絡帳を使って児童の様子を伝えている。 必要なことは情報交換を行っている。毎週学級便りを発信している。 保護者ボランティアの活動を行っている。 学校ホームページで、どの学年も日頃の様子が伝わっている。 保護者会や個人面談だけでなく、必要に応じて連絡帳等で情報交換をし、共通理解のもと児童の指導にあたることができた。 情報発信はよくしている学校だと感じる。 学年便り、学級通信、学校HPなど、いろいろな方法で、学校での様子を保護者に発信することができた。 学校掲示板を使い、積極的に外部に対しての情報発信を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の様子を知りたいときにホームページを見ると活動内容が良く分かる。いつでも学校公開ということで保護者の参観は事前に断ればできる体制を整え周知する。 城二小だよりはいつも参考にし、目を通して見る。情報がなければ指導したり注意はできないと思うし、学校公開にはできるだけ参加したい。 うわさが情報となり、一人歩きをする時がある。そのようなことを防止する意味においても学校ホームページや学校だよりは大切だと思う。 ホームページを頻繁に更新しており、積極的に情報発信に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在行っている情報発信を、今後も続けていく。29年度よりコミュニティスクールとなることもあり、さらなる情報発信の方法を工夫していく。 学校外の掲示板は町会のお年寄りにはわかりやすい発信場所となっており、掲示委員会を活用した取り組みをさらに増やしていく。
	保護者アンケート、1-(2):80%以上 1学期 保護者1-(2)98%。				
②	学校は、保護者・地域の力を十分に生かして教育を進めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習で多大な協力を得ている。 学年行事や父親の会主催の行事など、PTAとも連携した取り組みをしている。 保護者ボランティアを教育活動の中に多く取り入れており、さまざまな分野で生かされている。 教科学習、クラブ活動などで、校外の方の力を借りながら学習や活動を進めている。 地域と結び付いた活動を意図的に行っている。 様々な行事でお手伝いをいただき、ありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> よくやっている。 保護者、地域の力が十分に生かされていると思う。学校の運営に必要な口を出すことは注意しなければならないと思う。 地域や保護者と積極的に連携し、学校との良好な協力関係ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 品川宿まちづくり協議会や地域団体と継続して行っている取り組みは、すでに定着しているので、コミュニティスクールとなった後も実践していく。今後、学校地域コーディネーターを活用し、さらなる地域の人材活用を進める。
	保護者アンケート、1-(3):80%以上 1学期 92%				
③	保護者は本校の教育に満足している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 運動会や音楽会などの行事のアンケートによつては、指摘がある。 個人面談などで話した事柄、要望にも応えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 指摘があれば改善するための策が生まれてくる。具体的な批判を歓迎する姿勢を常に持つ。 保護者アンケート結果から見ても、十分満足していると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は高いが、これに安心することなく、さらなる学校改革を進め、より安心できる学校を目指していく
	保護者アンケート、1-(1):80%以上 1学期 96%				

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目4 環境整備・美化

評価指標	上段: 取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	学校は、常に、児童・生徒の安全に配慮している。	A A14 74% B4 21% C1 5% D0	<ul style="list-style-type: none"> 水飲み場の角にクッションを張ったり、感染症が流行し始めるとアルコール消毒液を各クラスに配布したりするなど、細かなところまで児童の安全について考慮されている。 安全指導が必要な教科で指導を確実にしている。 安全点検などしっかり行っている。 日常的に子供たちの様子を観察し、けがの未然防止のため、生活指導部を中心に児童に働きかけている。 安全指導、毎月の確認カードで配慮している。 全教職員で安全について配慮をし、安全点検は実施されているが、2か月に一度になっている。毎月行って危険箇所がないか、さらに注意深く点検していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の安全点検はよくできている。 施設遊具の安全な扱い方も徹底を図る。 インフルエンザ等の感染症対策に手洗いがいいマスクの着用、キエルキン(アルコールより強力)の活用が効果的。家庭で感染者がいたら出席停止とし医者から許可がでたら登校可とする。 安全面でよく配慮されていると思う。家庭の中のほうが危険物が多いのではないか。 施設の安全点検が確実に実施され、けがを未然に防ぐ取り組みもなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の安全点検を複数の目で、計画的に進めていく。インフルエンザの感染や給食調理における衛生管理などの徹底を継続して進めていく。
	毎月1回、安全点検を全教員で実施し、危険箇所を早期に発見している。				
②	学校は、常にふさわしい環境(掲示、清掃等)を整える努力をしている。	A A13 68% B6 32% C0 D0	<ul style="list-style-type: none"> 校内掲示物の更新が滞ることがある。 主事さんが朝早くから落ち葉拾いをされていたり、校内の清掃をしてくださっているので、きれいな環境を保っていると思います。飼育・栽培委員会の児童が毎朝、公園にある花の水やりをしている。 主事さんが細かいところまで目を配り、環境を整えてくださっている。 図工の作品を継続的に校内に掲示することができた。 掲示物をよく見て、古いものでないように更新、掲示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 主事さんの力は大きいですが全員が意識を高く持つための工夫があるとさらに良くなる。 主事さんが細かいところまで目配りしている様に思う。落書きの清掃は大変と思う。 掲示や清掃には常に気を配っており、校内はきれいで良い印象である。 	<ul style="list-style-type: none"> 主事を中心に校舎内外の清掃を進めている。しかし、校舎の構造上、校庭の砂が廊下に入ることを完全には防ぐことができない。
	掲示物は最新のもが掲示できている。門の周辺は、季節の花で飾っている。				
③	掲示物などは常に工夫されている。	B A6 32% B13 68% C0 D0	<ul style="list-style-type: none"> 学習の足跡が分かるようにしている。板書の写真を掲示している。 掲示委員会で、掲示板に季節の掲示をした。 各学年の様子が、ホームページだけでなく、学校外の掲示板にも張り出され、地域の方にも学校の様子が伝わるようになっていく。 図工の作品を継続的に校内に掲示するようになった。 教室にクリアファイルを掲示し、学習カードをその都度掲示するようにしている。 クラブや委員会の作品を丁寧に掲示されている 	<ul style="list-style-type: none"> 掲示物が古いままになることが学級によっては見られる。安全点検の項目に入れて全員で確認する。 掲示物も季節により工夫され掲示されている。 図工作品の展示など、児童の意欲を引き出す工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎内外の掲示物を、掲示委員会、教員が常に最新のものとなるよう意識している。児童なりの工夫も見られているので、一層促進していきたい。
	各学年の活動の様子を月別に分けて掲示している。児童の作品を校舎内に掲示している。				

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目5 いじめ防止に関する取組

評価指標	上段: 取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	本校の基本的な考え方	<p>○いじめは、決して許されないことであり、どの子どもにも起こり得るという意識を全教職員がもつ。 ○いじめは傷害罪・暴行罪などの刑事上の犯罪行為につながることを児童に理解させる。 ○いじめの防止並びに初期指導は担任ならびに学年で連携して対応する。 ○管理職への報告とともに、保護者やスクールカウンセラー、関係機関と連携を図りながら、早期 解決・解消を図るとともに、経過確認を確実に行う。</p>			
	児童・生徒アンケートや、その他の取組を具体的に実施して早期発見に努め、発見時は組織的な対応をしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間で情報を共有し、管理職に報告をしている。 ・毎週、毎月のアンケートや、児童面談月間などを利用し、いじめの早期発見や防止に努めている。 ・職員や専門機関がその都度対応を行っているが、話し合いの場を定期的に設けることが難しいため、情報共有しにくく継続した支援につなげにくい。 ・毎週の城二小五つのみまりの実施により、児童一人一人がどのようなことをしてはいけないのかを意識して生活できるようになってきた。 ・アンケートや木曜日に行う「してはいけない5つのみまり」への取り組みにより、早期発見ができています。 ・組織的な対応はできていると思うが、今年度は、情報の発信および共有が、やや後手に回ったことがあった。 ・アンケートは有効な手立てだと考える。 ・児童面談月間では、アンケート結果をもとに児童全員と話をすることができている。 ・たくさんの種類のアンケートを細かく実施し、教職員側も子供側も「いじめは絶対にいけない。」といった意識づけが徹底されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校朝礼、全校集会、学年集会や各クラスで「いじめは絶対に許さない！」と全教職員が子供達に強く伝える機会も考えてみては。 ・やっといういいこと、いけないことを各クラスの掲示し、朝に復唱することも1つの手立てと考える。 ・不登校、いじめの問題については、昔もあった話ですが、自分の気持ちを言える仲間と友人、大人が存在が必要だと思う。城二小の5つのみまりは継続すべきである。 ・いじめは早期発見、適切な対応が大事だが、それが着実に実践されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・28年度の行ったいじめゼロ、不登校ゼロに関する取り組みを、真摯に続けていく。 ・早期発見のための教師のアンテナを常に高くし、教職員間の情報交換を密にしておく。
	いじめゼロ、不登校児童ゼロにする。 1学期 いじめ認知件数1 不登校0 2学期 いじめ認知件数0 不登校1				
	②	未然防止のために、市民科を中心にした指導を展開している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・セカンドステップの指導を行った。 ・大仁田厚氏の講演をはじめ、ネットいじめの授業をするなど、いじめ関連の授業をしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記と同様に全校朝礼、全校集会、学年集会や各クラスで「いじめは絶対に許さない！」と全教職員が子供達に強く伝える機会も考えてみては。 ・やっといういいこと、いけないことを各クラスの掲示し、朝に復唱することも1つの手立てと考える。 ・いじめ防止のために、市民科の教育内容も考えられている。
市民科授業の人間関係形成領域でいじめ関連の問題を取り上げる。	A4 21% B14 74% C0 D0 無答1				
③	規範意識を高める	B	<ul style="list-style-type: none"> ・セカンドステップの指導を行った。 ・普段の生活指導や授業の中で、挨拶、チャイム着席、持ち物をそろえることなど、身近なルールの徹底から声かけをしている。 ・1年生であっても、進級することで後輩の手本となることを折に触れて話し、学校のきまりを守ることを意識させている。 ・高学年になるにつれ、規範意識が薄れている傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民科の学習に機会をとらえて意識を高め教員の話をする。(学校で教材を準備する) ・ルールを守ることの大切さを教えることは手間がかかるが、頑張してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会が実践している「もつと挨拶広め隊」のような活動が、児童から出てきた点が評価できる。教師からの指導だけでなく、児童間でも規範意識を高められるような指導を進める。
児童アンケート 1-②⑤:85%以上 1学期 ②92.5% ⑤81.7% 2学期 ②90.9% ⑤79.1%	A7 37% B11 58% C1 5% D				
④	保護者との連携を図る	B	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な時は、電話や連絡帳で児童の様子を伝えている。課題点ばかりでなく、良い行いをした時も連絡できるとよい。 ・図書ボランティアで協力を仰いでいる。 ・児童の様子を日々見て、心配なことがあったら保護者に伝えた。 ・PTAの方が積極的に学校教育へ携わってくださっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な時に家庭との情報交換がスムーズにできるよう、普段の連携を大切にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて保護者への連絡を行っている。あまり良くない時だけでなく、児童の成長を見つけた時でも、連絡を取り、よい行動を強化していく。
保護者アンケート 1-(3):85%以上 1学期 92%	A4 21% B14 74% C1 5% D0				

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目6 学校独自の特色ある教育活動

本校の基本的な考え方		<ul style="list-style-type: none"> ○基礎体力の向上 体力アップチャレンジを毎月実施、土曜日の運動タイム、外遊びの励行、放課後時間の確保 ○読書の推進 読書旬間、家庭読書、学年での読書目標の設定 ○品川区体力向上モデル校 体力向上プロジェクト、マイクラススポーツの実施 ○幼保との連携 1年生との交流活動、ふれあい体験 			
評価指標	上段: 取組指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 成果指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	児童は休み時間などで積極的に運動をしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日外遊びを行っている。 ・高学年は自分から積極的に外で体を動かすことが極めて少ない。 ・学年が上がるほど少なく感じる。 ・中休みには全員外遊びをしている。 ・教員が外に出て、一緒に遊んでいる。 ・外遊びの声をかけ、体力向上を目指している。 ・高学年になると委員会の仕事などで忙しく、思うように外に出られない。 ・外に出る先生が増えたことで遊びが活性化されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上のモデル校ではあるが体育や朝マラソンなど1年間を通して計画を立て実践していく仕組みを作らないと、読書の推進や委員会活動によって高学年は休み時間に積極的に運動することは難しい。外遊びを目標から外すか、年間計画を意図的に行う必要がある。 ・先生方も運動時間に一緒に外で児童と遊んでいるとのことですが、体力のいる仕事とっています。体力づくりは小さい時から必要と思う。 ・教師と一緒に運動することは良いことだが、負担が大きくなならないような工夫も必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の体力向上、児童間の良好な人間関係作りに向けて担任が休み時間に外で遊ぶことが効果的であることを、教員が実感できた。今後も続けていく。
	児童アンケート1-④: 80%以上 1学期 ④73.2% 2学期 ④62.2%				
②	児童の読書量は増えている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・読書旬間を有効活用した。 ・読書旬間の取り組みが充実している。中でも図書委員会による読書クイズのおかげで、図書室の利用回数が増え、楽しんで本を読んでいる様子が見られるようになった。 ・読書に対する取り組みは、確実に成果が上がっていると思う。 ・好きな児童が多いとは、限らない。実際に家で読書している児童は少ない。 ・読書旬間中の読書クイズが、本に触れる意欲につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書への取り組みに工夫がほしい。他校での取り組みも見て参考にしたい。 ・読書を身に付けることは良いことと思うが頭でっかちな理屈ばかり言うことも多い、頭の良い子が増えてきている。 ・読書クイズなどの取り組みで図書館利用が増えれば、自然に読書量も増えると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティアの皆さんによる読み聞かせが、児童の読書意欲につながっている。29年度のコミュニティスクールの実戦でも、読書量増に向けた取り組みを継続発展させる。
	一人あたりの年間貸出し冊数を現在の35.4冊から40冊にする。 1学期 平均13.89冊 2学期 平均14.35冊				
③	体力向上モデル校として、体力向上に力を入れている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年は、ワンミニッツエクササイズにも毎日よく取り組んだと思うが、学年が上がるにつれて難しい部分があると感じた。低学年から習慣づけ、継続して行っていくとよいのではないか。 ・体力アップの時間を有効活用した。 ・体力アップタイムや授業で昨年度低かった項目に重点を当てて取り組んだ結果、区の平均以上にする項目が増えた。ワンミニッツ・エクササイズで全日できた児童に、校長賞を授与するなど、意欲を高めるための工夫もしている。 ・マイクラススポーツ、スポーツトライアル、ワンミニッツエクササイズ等、様々な取組を積極的に行っている。 ・ワンミニッツエクササイズのチェックカードは毎日提出させ、教師が目を通すようにし、やっていない児童には声をかけている。習慣として定着してきている。 ・体力アップタイムが今年度から、朝の時間の枠に他の活動とともに固定されたり、区から下りてきたスポーツトライアルも2年目に突入したりして様々な取組が軌道に乗ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Aの42%は立派な数字である。さらに工夫を加え、子ども達の意欲につながる活動を考えてみてはどうか。校長賞の他、校内大会の新設や連合体育大会や駅伝、サッカーやバレーボールなども紹介をして運動に興味・関心が持てる工夫も話し合ってみてはどうか。 ・文武両道の時代になってきたのでしょうか。 ・積極的に体力向上の取り組みが実施されており、その成果も上がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・品川区のワンミニッツエクササイズでは、毎月皆勤賞の児童が200人以上出ている。すぐに効果は出ないであろうが、運動を苦手にしていない児童でも、継続しており、今後も続けさせたい。 ・オリンピック、パラリンピック教育の年間計画にのっとり、意図的な指導を継続していく。
	体力テストの結果を区の平均以上にする。				
④	保育園・幼稚園との連携は進んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な交流活動ができた。 ・2学期に行われた音楽会では、リハーサルの日に近隣の幼稚園・保育園の児童が鑑賞をしに来ている。また、1年生と園児たちの交流給食も実施されている。 ・冬季休業中の見学など、積極的に行った。 ・7～8月は、幼稚園・保育園の来校による、小学校体験、10月に、幼稚園1園、保育園2園との交流給食を行った。10月は児童が園児との交流に向け、遊びや大ものの準備を計画的に準備でき、児童の自覚が深まった。 ・よく交流している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の連携を大切に、さらに幼稚園、保育園と調整を図って交流計画を進めてみてはどうか。 ・小学校に入学して給食が食べられないことがない様、家庭での注意が必要だと思う。 ・年間を通じて、積極的な交流活動を計画的に実施し、児童も学ぶところが多いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度の保育園のスクールステイ事業も始まるため、今年度行ってきた交流を土台に、さらなる連携を模索していく。
	年間実施計画書を作成し、計画した交流活動を確実に実施する。				

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

校区外部評価委員より（その他、お気付きの点などがありましたら自由にお書きください。）

- ・校長先生を先頭に学校全体が上手く運営されている様に思います。
- ・音楽会も選曲が良く、上手く指導されているのが分かりました。”ありがとう” ”君を信じる”という言葉が入った曲は聞いていても快く思いました。
- ・展覧会には児童のほうから声をかけられ(あいさつ)、学校全体の趣旨が少しづつ実ってきたのかと思いました。
- ・展覧会のテーマ「10年後の自分」は良かった。
- ・体力づくり、挨拶の仕方、家庭で身に付けなければならないことが何でも学校に頼り過ぎている感じがしました。
- ・親が自分の子供の性格、普段の様子に注意すべきと思う。先生方の荷も大きいのではないのか、城二小の先生方には頭が下がります。
- ・今後ともご指導よろしくお願い致します。素晴らしい学校と思います。

・「学校選択制と地域の活性化とは相いれない要素も存在するのではないか。」という意見もありますが、どの子もみな同じ品川区の子供です。他の地域の子供が来ても、また地域の子が他の学校を選択しても、受け入れる地域の方々がその児童を温かく迎えてくれたらと思います。

・「いじめはどこにでもある。」という視点で、丁寧な対応がとられていることが分かりました。さらに、「現在進行中のいじめ」に対する指導の具体例な説明もあり、いじめを隠さずにしっかりと対応している様子が分かり信頼が持てました。

・城二小、独自の教育活動の一つである「ハローグッドジョブ」は素晴らしい取り組みであり、ぜひとも継続していただきたい。

・本年度も6年生の4～5割の児童が私立中学校を受験しているという。一方で8年生(中学2年生)を対象とした東京駅伝に城二小の卒業生が6名ほど品川区の代表として参加していたという。大変素晴らしいことだと思う。

- ・すべての項目において、学校としての積極的な取り組み姿勢が感じられて、よい雰囲気である。
- ・先生方のアンケート集計から自己評価をされているようだが、成果指標の到達状況を考えると、もっと高い評価が適当であると思われる項目も多い。